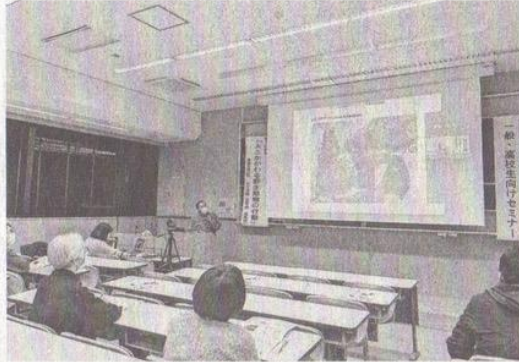


野生動物の行動 市民にセミナー

岩手大農学部

シカやツキノワグマなど、県内に生息する野生動物の行動について学ぶ学外向けのセミナーが盛岡市の岩手大農学部で開かれ、高校生や市民ら約30人が参加した。

セミナーは、研究成果を地域住民や高校生に知って



もらおうと、同大次世代アグリイノベーション研究センターが毎月開催している。

「人とかがわかる野生動物の行動」と題した6日のセミナーでは、同大農学部の出口善隆准教授(58)が、シカやイノシシ、ツキノワグマ、カモシカの生態について講義した。

出口准教授はシカの食害に遭っている果樹園で実施した研究を取り上げ、シカが人を避けるように深夜帯に活動していることを紹介。「野生動物は簡単にコントロールできるわけではない。対策にもバージョンアップが必要です」と解説した。

受講した盛岡の[]さんは「普段見えないところで動物がどのように行動しているかがわかり、面白かった」と話していた。

※読売新聞令和5年3月18日付
※この記事は読売新聞社の許諾を得て転載しています。
※無断転載・複写を禁じます